

平成19年度図書館情報メディア研究科プロジェクト研究 研究成果報告書

種 目	重点配分	共同研究	研究代表者 氏 名	宇陀 則彦
研究課題	機関リポジトリに特化した適合性フィードバックの性能評価			
研究組織（研究代表者及び研究分担者）				
氏 名	所属研究機関・部局・職	現在の専門	役割分担	
宇陀 則彦	筑波大学・図書館情報メディア研究科・准教授	図書館情報学	研究統括・性能評価	
植松 貞夫	筑波大学・図書館情報メディア研究科・教授	図書館情報学	機関リポジトリ整備	
松村 敦	筑波大学・図書館情報メディア研究科・助教	情報科学	性能評価	
荒木 禎史	(株)リコー・ソフトウェア研究開発本部・研究員	情報科学	アルゴリズム開発	
研究目的				
<p>機関リポジトリ構築事業は国立情報学研究所が最先端学術情報基盤構築事業（CSI 事業）の一環として行っている事業である。筑波大学附属図書館も国立情報学研究所から委託を受け学内の知的生産物の収集を行っている。この先、機関リポジトリ構築が順調に進めば、次に行うべき課題は機関リポジトリの効率的利用である。筑波大学附属図書館研究開発室は（株）リコーと協力し、国内の機関リポジトリを対象とした横断検索システムのプロトタイプを昨年度末に構築した。今年度はさらに横断検索システムの性能向上を目指し、適合性フィードバックの評価を行った。</p>				
研究成果				
<p>今年度、横断検索システムの性能評価実験を以下のように行った。</p> <p>第1回目：2007.08.01-09.03 [従来方式の検索] 被験者 12 人</p> <p>第2回目：2007.12.03-12.09 [新方式の検索] 被験者 11 人</p> <p>第3回目：2008.03.26-03.27 [新インタフェース実験] 被験者 6 人（+5人(4月下旬に実施予定)）</p> <p>1 回目と 2 回目の実験では、機関リポジトリを対象に研究テーマに関する文献探索を行い、新方式の効果を測った。1 回目と 2 回目で用いた検索課題は同一のものである。2 つの実験データを比較したところ、検索精度にほとんど向上が見られなかったが、システムの使い方に一定のパターンがあることがわかった。そこで、3 日回目の実験では、過去に参照した文献、他人が参照した文献をそれぞれ別フレームに表示するインタフェースを用い、インタフェースと検索行動の関連について分析を行うことにした。実験内容は、発話思考法を用い、検索する過程をすべて口にだしてもらうとともに、ビデオ撮影を行い、検索の様子を記録・観察した。実験の結果、検索課題の種類とインタフェースの使い方に相関があることが確認できた。</p>				
代表的な研究発表・特許等の成果一覧、特記事項等				
現在データ分析中。成果は 2008 年度に発表予定。				